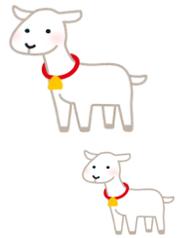


みどり通信



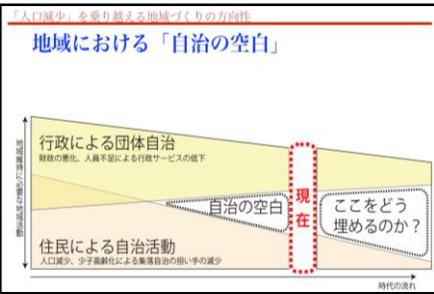
第9号

発行:地域創生課

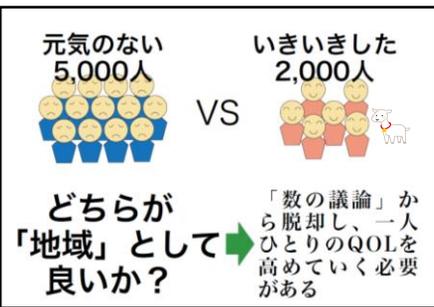


1月24日(金)、徳島大学の田口太郎教授をお招きして、勉強会を開催しました。

田口先生は、神奈川県から徳島県佐那河内村(さなごうちそん)の小さな集落に家族で移住し、消防団の分団長も務められており、地域の活動にも積極的に参加されています。小さな集落で地域の人たちと暮らしながら、地域づくりの研究をする田口先生のお話は、共感と説得力に溢れていました。



図①：自治の空白



QOLとは
Quality of life(クオリティオブライフ)
「生活の質」「生命の質」

人口が減っていく地域で「どうすれば地域の活動を維持しながら、そこに暮らす方々が幸せに暮らせるか」また「そのためには、地域・行政・外部人材(翠地区を応援してくれる方)が、いかに協力して自治の空白(図①)を埋めていくか」など、実体験を踏まえながら分かりやすくお話していただきました。お話のなかで、一番気になったことは、「これからの地域を想い、話し合い、取り組みを始めていく地域と、話し合いや行動をしないあきらめ感が強い地域では、これからのどんどん格差が生まれてくるだろう」という言葉でした。

翠地区が前者であるために、これからもいっしょに考え「まずはやってみよう」の気持ちで、前に進みたいと思った勉強会でした。



勉強会に参加した職員メモ

- 翠地区に住んでなくても、翠地区の活動を手伝ってくれる仲間を増やす
- (地区を出ることになっても、「よろしく」といえる日ごろからの関係性づくりが大切だ)
- 地域づくり無関心層へのアプローチを
- 地域の役職って本当にいるのか考える
- スマホやタブレットを使って、地域活動の省エネ化を図る
- 各集落の今と10年後の状態を年代別にシールを貼って確認してみる
- (10年後にできなくなっている地域活動の洗い出しと解決策を話し合う)
- この翠地区の意見交換会の取り組みは、本市の他の地域にない素晴らしい取り組みであることを再確認した

「上灘川の清掃」について
振り返りを行いました

ヨシの
処分が
気になる

1年たてばもとに戻って
しまうことを考えると、
今回きれいにした場所だ
けでも継続していこう

きれいになって
気持ちいい

達成感・充実感があつた

車を運転していても
見晴らしがよくなっ
たという話も聞く

清掃の範囲を
広げるのは
難しいかも

初挑戦だった
楽しかった

みんな手際
が良かった

河川清掃以外のことを
やってみたらどうかな

補助金の確保など、今後も取
り組みを継続するなら、地域
のいろんな課題を考えていっ
たほうがいいのではないか

人が集まって、みん
なで協力してやった
のが良かった

より多くの方々
に参加してもら
うといい

地域と翠小
学校の絆を
強めたい

「竹を放置していたらカブトムシ
が生息した」みたいに、刈ったヨシ
の有効活用まできちんと考え実
行して1クールが完了だと思う

翠小のマラソン大会の時に眺め
がよく清掃の効果が実感できた

【連絡先】

これまで意見交換会に参加
されていない方も、参加大歓迎
です。

翠地区で暮らす方々が、これからも幸
せに暮らすために「いま何をしたら良
いか」、「自分たちで出来ること」、「行政
がやるべきこと」など、いっしょに考えま
しょう。

令和5年の6月から始まった翠地区意
見交換会も2年が経ちました。
これまで、集落実態調査や意見交換会
の開催。「まずはやってみよう」というこ
とで、防災学習・体験会、上灘川清掃を
実施してきました。
次回(3月19日)の会では、2年間の振
り返りと、今後の取組みについて、話し合
いたいと思います。

3月19日(水)18時30分〜
第9回意見交換会を開催します

双海地域事務所内

集落支援員 森田

(0986) 11111

